

日本福祉大学福祉社会開発研究所 『日本福祉大学研究紀要 - 現代と文化』  
第 121 号 2010 年 3 月

追悼

## 名付け親岸本晴雄教授の死を悼む

岸本先生とともに本誌の創刊にあたった。「研究紀要 文化領域」という題名が古臭いと先生も私も感じていた。当時、『大学評論』も休刊中であり、領域を広げ、自由に意見や解釈が公にできるものにしようと、編集委員会議はまとまった。そして、編集大方針としてはこんなことが議論されて、了承された。

- \* ジャンルは自由で、自由に意見発表ができる紙面づくりにする。
- \* 編集委員会は権威主義的な対応ではなく、自由な発表を保証する。
- \* 可能な限り、世界や国内情勢、あるいは文化状況などを捉え、特集をくんでいくことにする。

そして、本誌の名称をどうするかが、この後の問題になり、あれこれ出されてきたが、結局、岸本先生の最初にだされた「現代の文化」から、編集委員の意見も取り入れて、ここに『現代と文化』が創刊された。今から、15 年前のまさに 20 世紀だった。本誌も多少趣を変えてきたが、刊行当初の「人間が過去に置き忘れてきた重要な 価値 を再認識し、それを基盤に、21 世紀の社会のシステムを再構築していくための手段（武器）を提供することにある、経済が主人公であった時代から、自然や人間が主人公になれる時代への橋渡しのきっかけに」なればという、第 102 号（2000 年 3 月）の巻頭言の言葉は、その先見性とともに、世紀を超えて重い意味を持って実践にうつされようとしている。時宜にかなった特集、イラク戦争勃発時には 戦争と平和 を特集し、学園祭でシンポジウムを開催したこともあった。

岸本先生！先生にご尽力頂いて産み出した『現代と文化』は、時代の荒波に抗してたくましく舵をとって進んでおります。先生のキャラクターのひとつ、優しいほほ笑みを浮かべて、この船の行く先を見守っててください。先生のご逝去をお悼み申し上げます。

2010 年 3 月 24 日

創刊時編集委員会を代表し  
福祉経営学部教授

内野 信幸